

令和3年3月の解説（週間天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は、低気圧と高気圧が日本付近を交互に通過したため、全国的に天気は数日の周期で変わりました。2日は前線を伴った低気圧が発達しながら日本付近を通過した影響で、広い範囲で荒れた天気となった所がありました。また、本州の南岸をたびたび低気圧が通過したため、東・西日本太平洋側では曇りや雨の日が多くなりました。一方、高気圧は北日本付近を通過することが多かったため、北日本では太平洋側を中心に晴れの日が多くなりました。気温は、北からの寒気の影響が弱く、暖かい空気に覆われる日が多かったため、全国的に高く、北日本、東日本、西日本ではかなり高くなりました。

中旬は、高気圧と低気圧が本州付近を交互に通過したため、北日本から西日本の天気は数日の周期で変わりました。12日から14日にかけては、低気圧が発達しながら本州付近を通過したため、北・東・西日本太平洋側を中心に大雨となった所がありました。沖縄・奄美では期間の前半に前線の影響で天気の崩れた日があった他は、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われたため、全国的にかなり高くなりました。

下旬は、低気圧と高気圧が本州付近を交互に通過したため、天気は全国的に数日の周期で変わりました。21日は前線を伴った低気圧が日本海を通過し、また28日から29日にかけては、本州の南岸と日本海を前線を伴った低気圧がそれぞれ通過したため全国的に雨が降り、北・東・西日本太平洋側の所々で大雨となりました。低気圧の通過後は移動性高気圧が西日本付近を通ることが多かったため、西日本日本海側では日照時間がかなり多くなりました。

【3月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも11ポイント高い82%でした。地方別の適中率では、九州南部地方を除く各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.6℃小さい2.0℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.9℃で、北海道地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、日本の南海上に前線が停滞するようになり、例年ではこの時期に沖縄・奄美は他の地方よりも一足早く梅雨に入ります。この前線が本州の南岸まで北上して停滞すると、西日本や東日本でも曇りや雨の日が続くことがあり、時には大雨となることもあります。天候に左右されやすい屋外の活動や行事を準備される際は、最新の週間天気予報をご確認ください。